

高校生・大学生のキャリア成熟に関する研究 －キャリアレディネス尺度短縮版（CRS-S）の 信頼性と妥当性の検討－

坂柳 恒夫

名誉教授

A Study on Career Maturity in High School and University Students: Examination of Reliability and Validity of Career Readiness Scales -Short version (CRS-S)

Tsuneo SAKAYANAGI

Professor Emeritus of Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

問題と目的

キャリア成熟 (career maturity) は、キャリアガイダンス・カウンセリング (キャリア教育・進路指導) における重要概念である。キャリア成熟とは、「キャリア発達課題へ取り組もうとする個人の態度的・認知的レディネス (Super, 1984)」、「知見の広い、年齢にふさわしいキャリア決定をするための個人のレディネス (King, 1989)」、「キャリアの選択・決定やその後の適応への個人のレディネスないし取り組み姿勢 (坂柳, 1991)」などと定義され、職業的発達 (vocational development)、職業的成熟 (vocational maturity)、キャリア発達 (career development) の諸概念を包括した概念になっている (坂柳, 1991)。近年では、Savickas (2002) が、基礎力としてのキャリア成熟だけでなく、環境変化への対応力としてのキャリア・アダプタビリティ (career adaptability) の重要性と、双方の相乗効果を指摘している。

キャリアガイダンス・カウンセリングは、個々人のキャリア成熟の促進を目指した教育活動である (Herr & Cramer, 1988)。キャリアガイダンス・カウンセリングの目標達成には、まずキャリア成熟の実態を把握しておくことが必要である (坂柳, 1981)。そのために、キャリア成熟研究の主要な焦点は、キャリア成熟の測定法に当てられていたといえる。これまでに、青少年から成人までのキャリア成熟を測定・評価する目的で設計された数多くのツール (調査・検査類) が開発されている。Super はキャリア成熟の基準について詳細な検討を行い、「キャリア発達目録 (Career Development Inventory: 略称CDI)」を、Crites はキャリア成熟の階層群因子モデルを提案し、キャリア成熟目録 (Career Maturity Inventory: 略称CMI) を開発した (坂柳, 1991)。なお、Super のCDIやCritesのCMIは、逐次改訂

されてきた。最近では、C M I の改訂版として、キャリア・アダプタビリティの次元を導入したりリニューアルの C M I が考案されている (Savickas & Porfeli, 2011)。

Super や Crites らによるキャリア成熟の構成次元や因子モデルの提案、ツールの開発は、キャリア発達課題の達成を支援するキャリアガイダンス・カウンセリングの実践に大きな影響を与えた。主体的なキャリアの選択・決定ができるためには、その前提として選択・決定に必要なレディネス (キャリア成熟) が必要である。すなわち、キャリアの自己選択力や自己決定力は、ある特定の時期・場面などで突然形成される資質ではなく、その基盤となるキャリア成熟の促進によって形成されるものである (坂柳・池場, 2004)。

進化したキャリアの概念は、個人の時間的経過や動態的過程の強調だけでなく、視野範囲においても、「職業」という視点から「人生・生涯」という視点にまで拡大され、より包括的になっている (Super, 1984; Herr & Cramer, 1988)。坂柳 (1996) は、キャリア成熟の測定では、「職業キャリア」だけでなく、「人生キャリア」も視野範囲に入れておくことが必要であることを指摘し、2系列からなる「キャリア・レディネス尺度 (Career Readiness Scales): 略称 C R S」を作成し、大学生を対象にして、その信頼性と妥当性の検討を行った。C R S は、職業キャリア成熟、人生キャリア成熟ともに、自己のキャリアに対して積極的な関心をもつ「関心性 (concern)」, 自己のキャリアへの取り組み姿勢が自律的であるかをみる「自律性 (autonomy)」, 将来展望をもち、自己のキャリアに対して計画的であるかをみる「計画性 (planning)」の3つの次元から構成されている。Super (1955) によって最初に提唱された職業的成熟は、下位概念の構造が複雑であったが、その後、尺度の開発を通して概念の再構成や整理が行われた結果、「関心性」、「自律性」、「計画性」へと集約された。これら3つの下位次元と Super の定義した職業的成熟概念の関係を比較してみると、関心性は「職業選択への志向性 (orientation of vocational choice)」にあたり、自律性は「諸特性の結晶化 (crystallization of traits)」に、計画性は「選好した職業に関する情報と計画性 (information and planning about preferred occupation)」, 「職業的選好の賢明さ (wisdom of vocational preferences)」, 「職業的選好の一貫性 (consistency of vocational preferences)」にそれぞれ対応しているといえる (松井, 2014)。

キャリア成熟には、どのような要因が、どのような形で影響を及ぼしているのか、すなわち、キャリア成熟の影響要因の分析を進めていくことが必要になる。また、キャリア成熟には、Super (1984) が指摘しているように、現実的には個人的変数と状況の変数が複雑に絡み合い影響していると予想される。したがって、キャリア成熟と個々の要因との関連を検討するだけでなく、複数の要因を同時に採用し、その促進力・抑制力を総合的・相対的に検討していくような、キャリア成熟への相対的影響力の分析も必要になる。

ところで、このようなキャリア成熟に関する調査研究においては、1つだけの尺度ではなく、複数の尺度や項目を使用することが少なくない。そして、調査票 (質問紙) が全体として相当の分量になり、実施に必要な時間も長くなり、調査の対象者に大きな負担をかけることになる。結果的に、無効回答も増えてしまうことにもなる。そのような場合の解決策の1つとして、尺度の短縮化が考えられる。本研究では、高校生・大学生が「職業と人生」について、どの程度成熟した考えをもっているのかを測定するキャリア成熟尺度の短縮版の作成を試みた。本研究の主な目的は、試案として作成された「キャリアレディネス尺度短縮版 (Career Readiness Scales -Short version): 略称 C R S - S」について、その信頼

性と妥当性を検討することである。

研究の方法

1. 調査の内容

調査の内容は、次のとおりである。

(1) キャリアレディネス尺度短縮版（CRS-S）

キャリアレディネス尺度短縮版の構成にあたっては、坂柳（1996）の「キャリア・レディネス尺度（CRS）」（以下、オリジナル版と略記）の特徴を活かして、①職業キャリアレディネス（主に、職業選択・就職や職業生活への取り組み姿勢）、②人生キャリアレディネス（主に、人生や生き方への取り組み姿勢）、の2系列（方向）のキャリアレディネスが設定された。

高校生・大学生のキャリア成熟度を測定するために作成されたキャリアレディネス尺度短縮版は、オリジナル版と同様、＜表1＞に示した6つの下位尺度で構成されている。

＜表1＞ キャリアレディネス尺度短縮版（CRS-S）の構成

系 列 領 域	職業キャリアレディネス：OCR (Occupational Career Readiness)	人生キャリアレディネス：LCR (Life Career Readiness)
キャリア関心性 (Career Concern)	①職業キャリア関心性：OCC (Occupational Career Concern) OCC1, OCC2, OCC3 (計3項目)	④人生キャリア関心性：LCC (Life Career Concern) LCC1, LCC2, LCC3 (計3項目)
キャリア自律性 (Career Autonomy)	②職業キャリア自律性：OCA (Occupational Career Autonomy) OCA1, OCA2, OCA3 (計3項目)	⑤人生キャリア自律性：LCA (Life Career Autonomy) LCA1, LCA2, LCA3 (計3項目)
キャリア計画性 (Career Planning)	③職業キャリア計画性：OCP (Occupational Career Planning) OCP1, OCP2, OCP3 (計3項目)	⑥人生キャリア計画性：LCP (Life Career Planning) LCP1, LCP2, LCP3 (計3項目)

＜表2＞は、オリジナル版の54項目をもとに、主成分負荷量や平均得点、高校生への適用なども考慮してワーディングも検討し、最終的にキャリアレディネス尺度短縮版として採択された18項目の内容を示したものである。各項目とも「5：よくあてはまる」、「4：ややあてはまる」、「3：どちらともいえない」、「2：あまりあてはまらない」、「1：全くあてはまらない」という5段階評定法を用いている。したがって、各下位尺度の得点範囲は、3～15点に分布し、中間点は9点となっている。この得点が高いほど、当該領域のキャリアレディネス、すなわちキャリア成熟度が高いことを意味している。

＜表 2＞ キャリアレディネス尺度短縮版（CRS-S）の項目内容

【職業キャリアレディネスの略号と項目内容】

- OCC1：1. これからの職業生活や働き方について、とても興味を持っている。
 OCC2：4. 職業生活を充実させるために、より多くの情報に接するようにしている。
 OCC3：7. これからの働き方は自分にとって重要な問題なので、本気で考えている。
 OCA1：2. これからの職業生活は、自分の力で切り開いていこうと思う。
 OCA2：5. 職業生活をどう過ごすかは、他の人から言われなくても考えている。
 OCA3：8. 職業生活を充実させるためには、多くのことに進んでチャレンジしようと思う。
 OCP1：3. 希望する働き方をするための具体的な計画を立てている。
 OCP2：6. 将来どのような職業人になりたいのか、自分なりの目標を持っている。
 OCP3：9. 充実した職業生活を送るために、計画的に取り組んでいることがある。

【人生キャリアレディネスの略号と項目内容】

- LCC1：1. これからの人生や生き方について、とても興味を持っている。
 LCC2：4. 人生を充実させるために、より多くの情報に接するようにしている。
 LCC3：7. これからの生き方は自分にとって重要な問題なので、本気で考えている。
 LCA1：2. これからの人生は、自分の力で切り開いていこうと思う。
 LCA2：5. 人生をどう過ごすかは、他の人から言われなくても考えている。
 LCA3：8. 人生を充実させるためには、多くのことに進んでチャレンジしようと思う。
 LCP1：3. 希望する生き方をするための具体的な計画を立てている。
 LCP2：6. 将来どのような人になりたいのか、自分なりの目標を持っている。
 LCP3：9. 充実した人生を送るために、計画的に取り組んでいることがある。

(2) キャリア自己効力感尺度短縮版

本研究では、キャリア自己効力感を測定するため、坂柳・清水（1990）の作成した「進路課題自信尺度」をもとに、短縮版を作成した。職業課題への自信度、人生課題への自信度の2領域各3項目により構成されている。キャリア自己効力感尺度短縮版は、各項目とも「5：自信がある」、「4：やや自信がある」、「3：どちらともいえない」、「2：あまり自信がない」、「1：自信がない」という5段階評定法を用い、5点から1点までの得点が与えられ、各領域の合計得点が算出されるようになっている。この得点が高いほど、当該領域の自信度が高いことを意味している。キャリア自己効力感尺度短縮版の項目内容を、＜表 7＞に示した。

2. 調査の対象・時期

調査は、高校生男子 1,844 名、高校生女子 1,640 名、大学生男子 258 名、大学生女子 707 名の総計 4,449 名を対象に、2016(平成 28)年 9 月～12 月に実施された。

また、再検査による安定性(信頼性)を検討するため、大学生 92 名を対象にして、3 週間の間隔において 2 度の調査が実施された。

3. 分析方法

キャリアレディネス尺度短縮版（CRS-S）の分析では、次のことに基準をおいた。

(1) キャリアレディネス尺度短縮版（CRS-S）の信頼性

① CRS-Sの内的整合性

CRS-Sの内的整合性（等質性）を項目水準で検討するために、高校生・大学生それぞれに、各下位尺度内の3項目について、主成分分析を行う。また、各下位尺度内の3項目におけるそれぞれの項目と残り2項目の尺度得点の間の項目-全体（Item-Total）相関を求める。次に、CRS-Sの内的整合性を尺度水準で検討するために、Cronbachの標準化された α 係数を算出する。

② CRS-Sの安定性

CRS-Sの安定性（信頼性）を、大学生を対象にして、再検査法により検討する。この再検査法では、1回目と2回目（3週間後）との尺度得点の関連をみるために、安定性係数（相関係数）を算出する。

(2) キャリアレディネス尺度短縮版（CRS-S）の妥当性

① 下位尺度間の関連性

キャリア成熟、すなわちキャリアレディネスの概念設定の適切さについて検討するため、CRS-Sの下位尺度間の相関係数を学校段階別に算出する。

② 基準関連妥当性

基準関連妥当性の1つとして、CRS-Sの下位尺度とキャリア自己効力感尺度短縮版の下位尺度との関連を、学校段階別に検討する。

(3) キャリアレディネスの学校段階別・性別傾向

高校生・大学生のキャリア成熟、すなわちキャリアレディネスの一般的傾向を把握するため、学校段階と性の2要因による分散分析を行う。

結 果 と 考 察

1. キャリアレディネス尺度短縮版（CRS-S）の信頼性の検討

(1) 項目水準での検討

最初に、キャリアレディネス尺度短縮版（CRS-S）の信頼性（内的整合性）について、項目水準で検討を行うことにする。〈表3〉は、CRS-Sの主成分分析結果、項目得点と下位尺度得点との相関係数（I-T相関）および各項目の平均得点と標準偏差を学校段階別に示したものである。

【職業キャリアレディネス（OCR）の下位尺度】

① 職業キャリア関心性尺度

職業キャリア関心性尺度3項目について、主成分分析を行ったところ、第1主成分の負荷量は、高校生では.797～.825と、大学生では.738～.816となっており、すべての項目において高い値が得られ、1次元性が認められた。また、項目-全体相関をみると、高校生では.544～.584と、大学生では.445～.541となっており、すべて正の有意に高い相関係数が得られた。職業キャリア関心性尺度の各項目の平均得点は、高校生では3.02～3.79

と、大学生では 3.28 ～ 3.96 となっており、相対的には大学生の得点が高くなっている。
 以上のことから、項目水準でみた場合、職業キャリア関心性尺度の内的整合性（等質性）は高いと判断できる。

<表 3> キャリアレディネス尺度短縮版（CRS-S）の主成分分析結果、
 I-T 相関および各項目の平均得点と標準偏差

下位尺度と 構成項目番号	高校生 (N=3,484)				大学生 (N=965)				
	主成分 負荷量	I-T 相関	平均 得点	標準 偏差	主成分 負荷量	I-T 相関	平均 得点	標準 偏差	
【職業キャリアレディネス】									
職業キャリア関心性 OCC1	.797	.544	3.79	1.03	.738	.445	3.96	.90	
職業キャリア関心性 OCC2	.811	.563	3.02	1.02	.793	.509	3.28	1.00	
職業キャリア関心性 OCC3	.825	.584	3.43	.98	.816	.541	3.67	.97	

職業キャリア自律性 OCA1	.820	.564	3.71	.92	.801	.502	3.79	.88	
職業キャリア自律性 OCA2	.784	.515	3.37	1.04	.745	.436	3.48	1.01	
職業キャリア自律性 OCA3	.792	.524	3.50	.96	.758	.446	3.82	.87	

職業キャリア計画性 OCP1	.868	.664	2.82	1.04	.851	.634	2.87	1.03	
職業キャリア計画性 OCP2	.780	.541	3.41	1.18	.780	.536	3.47	1.07	
職業キャリア計画性 OCP3	.839	.612	2.69	1.04	.839	.614	2.86	1.05	
【人生キャリアレディネス】									
人生キャリア関心性 LCC1	.781	.523	3.71	1.05	.776	.701	4.07	.89	
人生キャリア関心性 LCC2	.809	.557	3.05	.99	.807	.599	3.45	.98	
人生キャリア関心性 LCC3	.838	.600	3.30	.99	.844	.713	3.64	.97	

人生キャリア自律性 LCA1	.837	.594	3.67	.94	.836	.587	3.91	.87	
人生キャリア自律性 LCA2	.770	.502	3.40	1.02	.771	.497	3.65	.96	
人生キャリア自律性 LCA3	.801	.538	3.46	.99	.783	.508	3.83	.89	

人生キャリア計画性 LCP1	.868	.662	2.90	1.01	.859	.646	3.05	1.00	
人生キャリア計画性 LCP2	.771	.526	3.50	1.07	.755	.501	3.72	.96	
人生キャリア計画性 LCP3	.836	.606	2.81	1.01	.842	.614	3.09	1.05	

（注）相関係数は、すべて $p < .001$ で有意である。

② 職業キャリア自律性尺度

職業キャリア自律性尺度に関する主成分分析の結果、第1主成分の負荷量は、高校生では.784～.820と、大学生では.745～.801となっており、すべての項目において高い値が得られ、1次元性が確認された。また、項目－全体相関をみると、高校生では.515～.564と、大学生では.436～.502となっており、すべて正の有意に高い相関係数が得られた。職業キャリア自律性尺度の各項目の平均得点は、高校生では3.37～3.71と、大学生では3.48～3.82となっており、相対的に大学生の得点がより高くなっている。

以上の結果から、項目水準でみた場合には、職業キャリア自律性尺度の内的整合性（等質性）は高いと判断できる。

③ 職業キャリア計画性尺度

職業キャリア計画性尺度3項目について、主成分分析を行ったところ、第1主成分の負荷量は、高校生では.780～.868と、大学生では.780～.851となっており、すべての項目において高い値が得られ、1次元性が認められた。また、項目－全体相関をみると、高校生では.541～.664と、大学生では.536～.634となっており、すべて正の有意に高い相関係数が得られた。職業キャリア計画性尺度の各項目の平均得点は、高校生では2.69～3.41と、大学生では2.86～3.47となっており、相対的には大学生の得点が高くなっている。

以上のことから、項目水準でみた場合、人生キャリア計画性尺度の内的整合性（等質性）は高いと判断できる。

【人生キャリアレディネス（LCR）の下位尺度】

① 人生キャリア関心性尺度

人生キャリア関心性尺度3項目について、主成分分析を行ったところ、第1主成分の負荷量は、高校生では.781～.838と、大学生では.776～.844となっており、すべての項目において高い値が得られ、1次元性が認められた。また、項目－全体相関をみると、高校生では.523～.600と、大学生では.599～.713となっており、すべて正の有意に高い相関係数が得られた。人生キャリア関心性尺度の各項目の平均得点は、高校生では3.05～3.71と、大学生では3.45～4.07となっており、相対的には大学生の得点が高くなっている。

以上のことから、項目水準でみた場合、職業キャリア関心性尺度の内的整合性（等質性）は高いと判断できる。

② 人生キャリア自律性尺度

人生キャリア自律性尺度に関する主成分分析の結果、第1主成分の負荷量は、高校生では.770～.837と、大学生では.771～.836となっており、すべての項目において高い値が得られ、1次元性が確認された。また、項目－全体相関をみると、高校生では.502～.594と、大学生では.497～.587となっており、すべて正の有意に高い相関係数が得られた。人生キャリア自律性尺度の各項目の平均得点は、高校生では3.40～3.67と、大学生では3.65～3.91となっており、相対的に大学生の得点がより高くなっている。

以上の結果から、項目水準でみた場合には、人生キャリア自律性尺度の内的整合性（等質性）は高いものと判断できる。

③ 人生キャリア計画性尺度

人生キャリア計画性尺度について、主成分分析を行ったところ、第1主成分の負荷量

は、高校生では.771～.868と、大学生では.755～.859であり、すべての項目において高い値が得られ、1次元性が認められた。また、項目－全体相関をみると、高校生では.526～.662と、大学生では.501～.646となっており、すべて正の有意に高い相関係数が得られた。人生キャリア計画性尺度の各項目の平均得点は、高校生では2.81～3.50と、大学生では3.05～3.72となっており、相対的には大学生の得点が高くなっている。

この結果から、項目水準でみた場合、人生キャリア計画性尺度の内的整合性（等質性）は高いと判断できる。

次に、キャリアレディネス尺度短縮版（CRS-S）の信頼性（内的整合性）を尺度水準で検討するために、Cronbachの標準化された α 係数を求めた。結果を、<表4>に示す。

CRS-Sを構成する尺度（6つの下位尺度）の標準化された α 係数は、高校生.716以上、大学生.653以上であり、各尺度が3項目と少ない割には受容できる水準にあった。

また、職業キャリアレディネスの総合尺度（9項目）では、高校生.886、大学生.864、人生キャリアレディネスの総合尺度（9項目）では、高校生.889、大学生.879と、高校生・大学生ともに、高い信頼性係数が得られた。

以上の結果より、項目水準と尺度水準でみた場合には、CRS-Sを構成している下位尺度は、内的整合性の観点より、一貫した内容を備えており、信頼性の高い尺度であるといえる。

<表4> キャリアレディネス尺度短縮版（CRS-S）の信頼性（Cronbachの α 係数）

	高校生 (N=3,484)	大学生 (N=965)
職業キャリアレディネス（総合）	.886	.864
①職業キャリア関心性	.740	.683
②職業キャリア自律性	.716	.653
③職業キャリア計画性	.773	.763
人生キャリアレディネス（総合）	.889	.879
④人生キャリア関心性	.725	.736
⑤人生キャリア自律性	.781	.713
⑥人生キャリア計画性	.766	.755

（注）数値は、標準化された α 係数

（2）安定性の検討

次に、キャリアレディネス尺度短縮版（CRS-S）の安定性（信頼性）を再検査法によって検討する。<表5>は、CRS-Sの下位尺度および総合尺度ごとに、1回目時、2回目時各々の平均得点(M)、標準偏差(SD)、そして、1回目と2回目との間の得点の安定性係数を示したものである。

<表5> キャリアレディネス尺度短縮版の安定性（再検査信頼性）

	1回目		2回目		安定性 r
	平均	標準	平均	標準	
	得点	偏差	得点	偏差	
職業キャリアレディネス	32.93	5.61	33.89	5.68	.800
①職業キャリア関心性	11.33	2.26	11.59	2.07	.790
②職業キャリア自律性	11.62	1.96	11.74	2.09	.749
③職業キャリア計画性	9.98	2.27	10.56	2.34	.700
人生キャリアレディネス	33.98	6.29	34.59	6.25	.857
④人生キャリア関心性	11.59	2.36	11.79	2.35	.757
⑤人生キャリア自律性	12.05	2.16	11.98	2.26	.827
⑥人生キャリア計画性	10.34	2.43	10.82	2.13	.759

（注）相関係数は、すべて $p < .001$ で有意である。

再検査法によって信頼性を検討する場合、着目すべき点は次の2点になる。まず第1点は、安定性係数の指標としての相関係数である。相関係数が高いということは、1回目に高得点であった者は2回目にも高得点であり、1回目に低得点であった者は2回目にも低得点であることを示し、相関係数が高ければ、その尺度の安定性が高いということになる。第2点は分布の型、とりわけ標準偏差についてである。標準偏差に変化がみられないということは、たとえ平均得点に変化していても、分布が平行移動していることを示し、標準偏差の変化が小さく、相関係数が高ければ分布に変化がほとんどない、換言すれば安定性が高いと判断される。

さて<表5>をみると、CRS-Sの下位尺度は、高い安定性係数（相関係数）を示している。また、各下位尺度および総合尺度における2回の平均得点・標準偏差は、ほぼ近似している。この結果から、キャリアレディネス尺度短縮版（CRS-S）の安定性は、満足できる水準にあるといえる。

2. キャリアレディネス尺度短縮版（CRS-S）の妥当性の検討

(1) CRS-Sの下位尺度間の関係構造

構成概念妥当性の一端を確認するため、CRS-Sの下位尺度間の相関係数を、学校段階別に算出した。結果は、<表6>に示したとおりである。

<表6> キャリアレディネスの下位尺度間の相関係数

	平均 得点	標準 偏差	① OCC	② OCA	③ OCP	④ LCC	⑤ LCA	⑥ LCP
[高校生 (N=3,484)]								
①職業キャリア関心性 OCC	10.23	2.46	—					
②職業キャリア自律性 OCA	9.40	2.24	.744	—				
③職業キャリア計画性 OCP	8.92	2.70	.669	.596	—			
④人生キャリア関心性 LCC	10.05	2.45	.783	.654	.579	—		
⑤人生キャリア自律性 LCA	9.47	2.16	.582	.728	.510	.652	—	
⑥人生キャリア計画性 LCP	9.20	2.54	.655	.588	.776	.689	.592	—
[大学生 (N=965)]								
①職業キャリア関心性 OCC	10.91	2.25	—					
②職業キャリア自律性 OCA	9.71	2.17	.717	—				
③職業キャリア計画性 OCP	9.20	2.60	.623	.583	—			
④人生キャリア関心性 LCC	11.15	2.30	.749	.572	.524	—		
⑤人生キャリア自律性 LCA	10.04	2.04	.562	.701	.489	.636	—	
⑥人生キャリア計画性 LCP	9.86	2.47	.592	.544	.743	.625	.557	—

(注) 相関係数は、すべて $p < .001$ で有意である。

<表6>から明らかのように、高校生では.510～.783、大学生では.489～.749となっており、すべての組合せにおいて有意な中程度もしくはそれ以上の高い正の相関が認められる。このように、CRS-Sの下位尺度間の結びつきは、全体的には強いといえる。すなわち、高校生・大学生いずれも、同一系列内の関心性・自律性・計画性の3つは、領域間で独立ではなく、相互に密接な関連を持っている。また、職業キャリアと人生キャリアとの系列間には、いずれの領域でも強い結びつきが認められる。

(2) キャリアレディネスとキャリア自己効力感との関連

基準関連妥当性の1つとして、キャリアレディネスとキャリア自己効力感との関連を検討する。

まず、キャリア自己効力感尺度短縮版の標準化された α 係数を算出した結果、職業課題への自信尺度は高校生では.786、大学生では.723となっており、人生課題への自信尺度は高校生では.773、大学生では.746となっており、高い信頼性係数が得られた。また、項目水準でみた内的整合性も十分に満足できる水準にあった(<表7>参照)。

<表7> キャリア自己効力感尺度短縮版の主成分分析結果, I-T 相関, 信頼性係数 α および各項目の平均得点と標準偏差

下位尺度と 項目の内容	主成分 負荷量	I-T 相関	平均 得点	標準 偏差
[高校生 (N=3,484)]				
① 職業課題への自信 ($\alpha = .786$)				
1. 希望する職業を決めるのに必要な情報・資料を自分で集めること。	.827	.606	3.18	1.01
3. 希望する職業を実現するための目標や計画をはっきりと立てること。	.872	.683	3.15	1.04
5. 自分に合う職業を決めること。	.815	.593	3.17	1.11
② 人生課題への自信 ($\alpha = .773$)				
2. 人生や生き方を知るために必要な情報・資料を自分で集めること。	.795	.559	3.12	1.00
4. 人生での目標や計画をはっきりと立てること。	.857	.651	3.14	1.06
6. 自分の人生や生き方を決めること。	.835	.616	3.35	1.10
[大学生 (N=965)]				
① 職業課題への自信 ($\alpha = .723$)				
1. 希望する職業を決めるのに必要な情報・資料を自分で集めること。	.811	.550	3.10	1.04
3. 希望する職業を実現するための目標や計画をはっきりと立てること。	.849	.610	3.08	1.07
5. 自分に合う職業を決めること。	.745	.474	3.06	1.08
② 人生課題への自信 ($\alpha = .746$)				
2. 人生や生き方を知るために必要な情報・資料を自分で集めること。	.777	.524	3.16	1.02
4. 人生での目標や計画をはっきりと立てること。	.835	.602	3.22	1.08
6. 自分の人生や生き方を決めること。	.830	.595	3.41	1.04

(注) 相関係数は, すべて $p < .001$ で有意である。

<表8>は, キャリアレディネス尺度短縮版の下位尺度とキャリア自己効力感尺度短縮版の下位尺度との相関係数を, 学校段階別に示したものである。

全体的な傾向として, 高校生・大学生いずれも, キャリアレディネスとキャリア自己効力感との間には, 正の相関が認められる。すなわち, キャリアレディネスが高いほど, 職業課題・人生課題への自信も高い傾向が示されている。とりわけ, 「キャリア計画性」と「キャリア自己効力感」との関連が, 高校生・大学生ともに, より強くなっている。

<表 8> キャリアレディネスとキャリア自己効力感との関連

	職業キャリアレディネス			人生キャリアレディネス		
	関心性	自律性	計画性	関心性	自律性	計画性
[高校生 (N=3,484)]						
① 職業課題への自信	.574	.514	.656	.502	.462	.589
② 人生課題への自信	.540	.504	.587	.546	.506	.609
[大学生 (N=965)]						
① 職業課題への自信	.445	.422	.596	.389	.399	.536
② 人生課題への自信	.396	.409	.532	.424	.453	.548

(注) 相関係数は、すべて $p < .001$ で有意である。

3. キャリアレディネスの学校段階別・性別傾向

高校生・大学生のキャリア成熟（キャリアレディネス）の質的な差異を把握する目的で、キャリアレディネスの各下位尺度と総合尺度について、学校段階別・性別による傾向を分析していくことにする。<表 9>は、キャリアレディネスの下位尺度と総合尺度の学校段階別・性別の平均得点、標準偏差および分散分析の結果を示したものである。

各尺度ごとに、学校段階・性の2要因の分散分析を行った結果、交互作用はいずれも有意ではなかった。

① 学校段階および性に関する主効果

キャリアレディネス尺度短縮版の「職業キャリア計画性」を除く全ての尺度に関して、有意であった。

職業と人生いずれも、キャリアの「関心性」と「自律性」は、学校段階では高校生よりも大学生の方が、性別では男子よりも女子の方がキャリア関心性の水準が高い。また、人生キャリア計画性は、学校段階では高校生よりも大学生の方が、性別では男子よりも女子の方がキャリア計画性の水準が高い。

② 学校段階のみに関する主効果

学校段階のみに関する主効果は、「職業キャリア計画性」の下位尺度で有意であった。高校生よりも大学生の方が、職業キャリア計画性の水準が高くなっている。

単一の総合尺度とした「職業キャリアレディネス」・「人生キャリアレディネス」は、学校段階および性に関する主効果が認められた。学校段階では高校生よりも大学生の方が、性別では男子よりも女子の方がキャリアレディネス、すなわちキャリア成熟の水準が高い。

キャリアレディネスを構成する下位尺度および総合尺度の平均得点は、全体的に高校生よりも大学生の方が高くなっており、キャリア発達段階における進歩的变化が認められる。

<表 9> キャリアレディネスの学校段階別・性別の平均得点、標準偏差（SD）および分散分析結果

	高校生		大学生		分散分析（F 値）	
	男子 (N=1,844)	女子 (N=1,640)	男子 (N=258)	女子 (N=707)	主 効 果	学校段階 性
職業キャリア関心性	10.08	10.40	10.42	11.09	28.39	26.57
OCC	(2.52)	(2.38)	(2.30)	(2.21)	***	***
職業キャリア自律性	9.28	9.55	9.44	9.81	5.57	12.90
OCA	(2.25)	(2.22)	(2.33)	(2.11)	*	***
職業キャリア計画性	8.83	9.02	9.07	9.25	4.87	2.96
OCP	(2.70)	(2.69)	(2.61)	(2.60)	*	ns
総合 OCR	28.22	29.08	28.98	30.34	15.76	19.21
	(6.53)	(6.28)	(6.32)	(5.72)	***	***
人生キャリア関心性	9.96	10.15	10.72	11.31	96.67	16.27
LCC	(2.50)	(2.39)	(2.44)	(2.23)	***	***
人生キャリア自律性	9.34	9.62	9.75	10.14	30.13	15.46
LCA	(2.19)	(2.12)	(2.21)	(1.96)	***	***
人生キャリア計画性	9.12	9.29	9.60	9.95	31.55	6.64
LCP	(2.59)	(2.48)	(2.50)	(2.45)	***	*
総合 LCR	28.42	29.06	30.07	31.40	64.92	15.98
	(6.36)	(6.12)	(6.29)	(5.64)	***	***

（注）* p<.05, *** p<.001, ns 有意差なし

要 約 と 今 後 の 課 題

本研究では、高校生・大学生を対象にして、キャリアレディネス尺度短縮版（CRS-S）に関する信頼性および妥当性の検討を行った。その結果は、次のように要約できる。

① CRS-S の信頼性（内的整合性）を、項目水準および尺度水準で検討した結果、キャリアレディネスを構成する各下位尺度は、高校生・大学生いずれも、内的整合性の点で一貫した内容を備えており、信頼性の高い尺度あることが確認された。

② CRS-S の概念設定の適切性を検討するために、CRS-S の下位尺度間の相関係数を算出した結果、高校生・大学生ともに、すべての組合せにおいて有意な中程度もしくはそれ以上のプラスの相関が認められ、CRS-S の下位尺度間の結びつきは、全体的に強いものであった。この結果から、CRS-S は概念的妥当性を有していると判

断された。

③ 基準関連妥当性として、キャリアレディネスとキャリア自己効力感との関連を検討した結果、高校生・大学生いずれも、全体的傾向として、キャリアレディネスとキャリア自己効力感との間には、正の相関が確認された。すなわち、キャリアレディネスが高いほど、職業課題・人生課題への自信度も高い傾向が認められた。とりわけ、「キャリア計画性」と「キャリア自己効力感」との関連がより強くなっていた。

④ CRS-Sの下位尺度と総合尺度について、学校段階・性による2要因分散分析の結果、キャリアレディネスを構成する下位尺度および総合尺度の平均得点は、高校生よりも大学生の方が高くなっていた。また、性差に関して、「職業キャリア計画性」を除く全ての尺度において、男子よりも女子の方がキャリアレディネスが高くなっていた。

以上の検討結果を総合して考えると、高校生・大学生のキャリア成熟度を測定する「キャリアレディネス尺度短縮版(CRS-S)」は、おおむね、信頼性および妥当性のある尺度であることが保証されたといえる。

今後は、「キャリアレディネス尺度短縮版(CRS-S)」を使用して、高校生・大学生のキャリア成熟と様々な影響要因との関連について検討を加えていく予定である。

引用・参考文献

- Crites,J.O. 1978 *Theory & Research Handbook for the Career Maturity Inventory*. Mcgraw- Hill.
- Herr,E.L. & Cramer,S.H. 1988 *Career guidance and counseling through the life span : Systematic approaches*. Boston : Scott,Foresman.
- King,S. 1989 Sex Differences in a Causal Model of Career Maturity. *Journal of Counseling & Development*, 68, 208-215.
- 松井桃子 2014 進路選択研究の統合的理解とその課題—大学でのキャリア支援に向けて 京都大学高等教育研究, 20: 63-72.
- 坂柳恒夫 1981 進路成熟の測定・評価と活用 中西信男・広井甫(編) 進路指導の心理と技術 福村出版, 91-100.
- 坂柳恒夫・清水和秋 1990 中学生の進路課題自信度と性役割自己概念との関連 進路指導研究, 11, 18-27.
- 坂柳恒夫 1991 進路成熟の測定と研究課題 愛知教育大学・教科教育センター・研究報告 15:269-280.
- 坂柳恒夫 1996 大学生のキャリア成熟に関する研究—キャリア・レディネス尺度(CRS)の信頼性と妥当性の検討 愛知教育大学・教科教育センター研究報告, 20: 9-18.
- 坂柳恒夫・池場望 2004 キャリア発達(演習) 日本教育カウンセラー協会(編) 教育カウンセラー標準テキスト中級編 図書文化社, 126-138.
- 坂柳恒夫 2013 キャリア理論 スクールカウンセリング推進協議会(編) ガイダンスカウンセラー実践事例集 学事出版, 92-95.
- Savickas,M.L. 2002 Career construction: an developmental theory of vocational behavior In Brown,D. & Associates (eds.) *Career Choice and Development* Jossey-Bass.149-205.
- Savickas,M.L. & Porfeli,E.J. 2011 Revision of the Career Maturity Inventory: The Adaptability Form *Journal of Career Assessment*, vol. 19, 4: 355-374.
- Super,D.E. 1955 The dimensions and measurement of vocational maturity. *Teachers College Recode* ,57, 151-163.
- Super,D.E. 1984 Career & life development. in Brown,D. & Brooks,L.(eds.) *Career Choice and Development* Jossey-Bass. 192-234.

(2018年9月20日受理)